

まいど！ざいむ局です！



# 関西元気企業

～世の中にないから価値がある～

今回ご紹介するのは、滋賀県大津市に所在する株式会社 I.S.T です。

「燃えない繊維」や「超耐熱樹脂」など、世の中にないものの開発に挑戦するほか、少子高齢化などの迫りくる社会問題を見据え、独自の社会貢献活動にも積極的に取り組んでおられる企業です。

起業以来の歩みを創業者である会長に、そして、今後の目標などを新社長に伺いました。

## 企業情報

名称 株式会社 I.S.T

所在地 滋賀県大津市一里山5丁目13番13号

設立 昭和58年

代表取締役会長 阪根 勇

代表取締役社長 阪根 利子

従業員 600名（連結） 資本金 80百万円

H P <http://www.istcorp.jp/>

## ●起業のきっかけを、創業者である会長に伺いました。

きっかけは、「新しいものを作りだしていく仕事が自分には向いている」という気持ちでした。

大学を卒業後、住友電気工業で研究開発の仕事をしていましたが、管理部門への人事異動を転機に退職し、今の会社を起業しました。当時、私は40歳でわずかな退職金を元手に創業し、その後私を慕ってきてくれた社員ら2人が加わり研究開発をスタートしました。

創業2年目の1984年に東京で起きた地下ケーブル火災の再発防止策として、当社が開発した「燃えない繊維」が注目され、NTT（当時の電電公社）に納入することが決まりました。当時、社員は3人しかいませんでしたが、大量の製品を納入するため、フル稼働で働きました。家内も炊き出しで応援してくれたりして、この頃から会社が飛躍的に発展していきました。この不燃繊維は、映画館や新幹線などで現在も使われています。

その後も、米国のデュポン社のポリイミド原料事業を買収するなどして事業を拡大していき、現在では、大きく分けて7事業を擁し、ある分野が落ち込んでも他の分野でカバーすることができる経営方針でリスク分散を図っています。



阪根 勇 会長

## ●製品開発の根本は“発想力”。

当社は「他社にないものを製作する」、「付加価値の高いものを手がける」ことを社則としていますが、

そのためには“発想力”が大切となります。

例えば、「耐熱透明フィルム」という 300℃の耐熱性を持つ無色透明の薄いフィルムは、20 年前に自ら開発を手掛け、最近になってようやく事業化できた製品です。当時は、モニタ画面の材料としてはガラスしかありませんでしたが、必ずガラスでは問題が生じてくるので、代替となる素材を開発しなければならないという想いがありました。そこから「フィルムを透明にする」という発想が生まれ、数百度の耐熱性を持たせるためにはどうすればいいか、今日まで試行錯誤を繰り返してきました。

### ●原料から生産設備まで一貫して内製化を徹底している理由。

当社は生産設備から自前で開発・製造といった内製化を図っています。確かにコスト負担にはなりますが、他社へ発注すると、当社の技術が模倣されてしまう恐れがあるからです。

また、内製化のメリットとして、開発の試行段階から、そのフェーズに見合うように生産設備も自社でタイムラグなく調整できるという強みがあります。他社へ依頼していたら、研究開発もどんどん遅れてしまい、故障しても自社ですぐに修理することで時間的なロスも無くなります。

### ●本業はもちろん、社会貢献活動にも力を入れているそうですね。

日本で急速に進行する少子高齢化問題に対し、地域に貢献し、豊かな社会を築くことも企業人の責務と考え、高齢者に生きがいとしての職場を提供しようとの思いで、2000 年から「GSLプロジェクト」という取り組みを行っています。

「GSL」とは、「Greatly Satisfying Life」の略で、「すばらしい第二の人生を」とのコンセプトで取り組み始めたプロジェクトです。

兵庫県の I. S. T 加美工場において、地域の高齢者を採用し、1日数時間 I. S. T で働いてもらい、余暇時間は趣味や職場仲間との団らんのほか、農作業など充実した1日を過ごしてもらっています。また、会社の敷地内に GSL 社員専用のスペースを設け、囲碁や手芸などで社員同士が交流できる場を提供しています。

この「GSLプロジェクト」は、2003 年に厚生労働大臣賞を受賞しました。



### ●「GSLプロジェクト」により、どんな効果がありましたか。

高齢者を採用したことで、熟練工にしかできない作業と、高齢者でもできる作業を区分けし、生産工程における各作業の見直しを行いました。

具体的には、人の高度な判断を要する検査過程において、ボタンひとつで検査可能な装置を開発して省人化を進めたほか、梱包作業での入れ忘れを検知するセンサーが付いた作業台を開発するなど、それまで生産に従事していた若手社員により各工程の改善や自動化を進めていきました。

こうした生産工程の見直しは、誰でも働ける職場を社員自らが模索するなかで実現したものであり、GSLプロジェクトによって工場の生産性向上にもつながっています。

### ●ほかにも、社会貢献活動を行っているそうですね。

日本の将来について考えた時、高齢化社会の進展に伴う介護職員不足も大きな社会問題と捉え、2013 年

から会社負担で社員に介護資格を取得してもらっています。また、給料は保障したまま資格取得した社員を介護施設に派遣し、施設で実際に介護の仕事にも従事してもらい、介護施設からは感謝の言葉もいただいています。

### ●社会貢献活動を行うほか、社員のことも思いやる会長。

私にとって、社員は会社のために様々なことを発想してくれる大切な存在です。当社は、従業員の3分の1が研究開発の仕事を行い、毎年、売上の5%程度は研究開発費に使い、世の中にないものの開発に挑戦してきました。ここまで会社が成長できたのも、新素材や新材料を開発してくれてくれた社員のおかげであり、社員の給料や福利厚生は手厚くしたいと思っております。消費税率が5%から8%に引き上げられたときには、社員の生活を守るため給料を3%程度上げました。

これからも、I.S.T独自の発想で世の中にないものを開発し、社員とともに成長し、社会に貢献する会社でありたいと思います。

## ～続いて、平成28年11月に就任された新社長にお話しを伺いました～

### ●新社長に就任されての意気込みを！

研究開発の仕事は、成果が出るまでに長い時間がかかりますが、ここにきてようやく、種を蒔いてきた商品の芽が出始めています。今年は、当社の技術をもう一步進歩させ、世に出せるスペックに育てていく大事な時期であり、事業をきっちりと軌道に乗せていく第一歩の年として取り組んでいきたいと思っております。

さらに、今まで当社が手がけてこなかった分野にも事業領域を広げていきたいと思っております。例えば、スマートフォンのディスプレイが液晶から有機ELに進化していくように、新しい分野に発展するための技術を提供する企業であることをもっとアピールし、新たな業界や企業との取引を増やしていきたいと思っております。



阪根 利子 社長

### ●経営者として重視することは。

製品開発においては、“テーマ選び”が最も重要です。当社が開発を手がけて失敗したものはありません。なぜなら、成功するまでやめないし、ものになるものしかやらないからです。それだけ開発テーマは厳選しています。

テーマを選ぶ際には、着手する前の構想段階に一番時間をかけています。取引先から開発要望を受けたり、社員からも多くのアイデアが生まれてきたりしますが、すぐに飛びつくということは一切ありません。研究開発には時間もかかりますし、人手もかかるので、最終の絵がかけるものしか着手しません。

「こんなものが世の中にあったら絶対に売れる」、「今は世の中にないから価値を認めてもらえる」という根幹の考え方はブレずに持ち続け、将来に向けて良い種を蒔き続けていきたいと思っております。

●目標や課題について教えてください。

会社を大きくするというよりも、技術力で1番でありたいと思っています。プリンターパーツでいえば、プリンターも普及し、ペーパーレス化の時代の流れもあって、市場は成熟状態になっています。しかし、そこで終わってはいは会社が成り立たないので、常に新しい技術を生み出していかなければなりません。また、今まで信用を築きあげてきた技術力、商品力、サービスの「I.S.Tクオリティ」は保ったまま、蒔いてきた技術の種をしっかりと商売につなげていかなければならないと思っています。

●若い社員や学生には、どんなことを期待しますか。

当社は、他社にないものをつくるため、“発想”がとても重要になりますが、何も無いところから発想は生まれません。若い社員は、仕事をやらされているとか、やりがいを感じられないといったこともあるかもしれませんが、いろいろなことを見て、知ることによって初めて発想は生まれてくるものであり、下積みがすごく大切です。将来、開発の仕事を行うために必要な下積みを若い間に粘り強く頑張ってもらいたいと思います。

また、残念なことですが、日本社会では入社して間もない社員が自殺や精神を病むことが多いのも事実です。逆に、会社での経験を重ねるごとに自殺率が減っていくのは、仕事にアイデアが出てきて、やりがいが出てくるからだと思います。当社の社員も、アイデアが生まれてきたら、時間を忘れて仕事をしています。アイデアが生まれるには、やはり最初の基礎となる下積み、忍耐が重要となりますので、学生のみなさんにはやる気を持って頑張ってもらいたいと思います。

●女性が活躍する社会の実現にはどのようなことが必要だと思いますか。

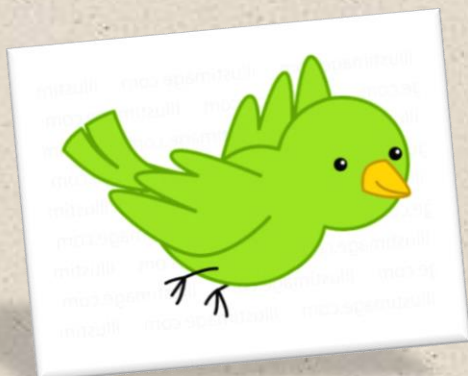
これは社長としてではなく、私個人としての意見になりますが、私は米国で20年近く働いていましたが、日本と米国では女性の働き方に対する考え方がまったく異なります。日本では、「企業は女性活躍の場を作ってあげましょう」という風潮が高まってきていますが、この考え方は女性に対し社会が上から目線です。そして、女性もその考え方に甘えている面があると思います。

一方、米国では女性も男性も対等という意識が高いと感じます。仕事に関しても、例えば、産休後1ヶ月で仕事に復帰するなど、女性が自らのポジション（活躍の場）を他人に奪われないよう頑張っていますし、女性が自ら地位を勝ち取っています。

日本で女性がもっと活躍するためには、女性の意識も変えていかなければならないと思います。女性も甘えない、だから女性も男性も同等に扱われる権利がある、くらいの意識を女性が持ち、女性が自ら社会の考え方を、そして社会を引っ張るくらいになっていってほしいと思います。

●最後に、今年の抱負をお願いします。

酉年なので、会社の知名度も技術力も、1歩前に羽ばたきたいですね（笑）



<取材後記>

世の中にはないものの開発に挑戦し、より良い、新しいものを提供することで成長してきた I. S. T。会社の成長とともに、少子高齢化など日本が抱える社会問題に対しても、高齢者の労働と余暇の両立を図ることや、介護支援活動を行うなど、日本の企業としてどう社会に貢献できるかも模索しています。研究開発、社会貢献、どちらも成果が出るまでに長い時間を要するものですが、まさに将来に向けての種蒔きです。

今回取材させていただいた I. S. T の、利益を追求するだけでなく、企業としてできる社会貢献にも取り組む姿を目の当たりにして、私たちも、地方を活性化すべく取り組み始めた地方創生に対し、より良い地域貢献ができるよう常に模索し、将来のために種を蒔き続けていかなければならないと、思いを新たにすることができました。

(大津財務事務所 財務課 課員)

掲載している情報は、平成 29 年 2 月時点のものです。

掲載している写真は、同社よりご提供いただきました。